

経営企画・経理部門スタッフが押さえておくべき： 投資評価手法の基礎知識と実際の適用での留意点

■日時■ 2014年12月10日 水曜日 13:00~17:00

■会場■ 東京・麹町 企業研究会 セミナールーム

■講師■ コーポレート・インテリジェンス株式会社 代表取締役社長 武富 為嗣 氏

《講師プロフィール》

大手エンジニアリング会社、アーサー・D・リトル、AT カーニー、SAP などを経て、現在の会社設立。経営戦略、研究開発、M&A、システム投資のオーナー側のコンサルティングなど、20 数年の経験を有する。日本工業大学大学院技術経営研究科教授(プロジェクトマネジメント)を兼任。国際 P2M 学会理事、日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)理事。マサチューセッツ工科大学スローンスクール MBA、東京工業大学工学修士、早稲田大学理工学部卒

■本セミナーの特徴■ 以下の方針・目的で本セミナーを進めます。

- ・投資は、企業における基本的な活動であり、財務経理部門の人だけではなく、数字を扱う企画部門の人にとっても、必須の項目です。ここでの内容は、経営戦略立案、事業投資、M&Aなどの講演者が実践で使っている内容やノウハウを含んでおり、基本的な考え方、手法として習得しておく必要のあるものです。
- ・設備投資、研究開発投資、IT投資など性格の異なる投資に戦略的な判断を交えて実際に適用したり、評価したりする場合の進め方と、当事者のマインド、評価のポイント、良くある失敗事例などを学び、実際の場面で使えるようになることを目的とします。
- ・また、実際の数値計算の方法と限界を理解し、経営計画に落とすところと、よくある失敗事例を学びます。

■ご参加をいただきたい皆さま■

経営企画部門・経理部門・財務部門 などにご所属され：

- ・代表的な投資評価手法の基本理論と適用の際のポイントを基礎から把握したい
- ・開発投資、設備投資に関する潜在的なリスクを把握・確認したい
- ・部門マネジメントのため、今後の業務のため、将来のキャリアのために、投資の基本を学びたい
・・・皆様など。

●参加要領●

●受講料● 1名(税込み、資料代含む)

正会員	32,400 円	本体価格 30,000 円
一般	35,640 円	本体価格 33,000 円

●申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてに FAX いただくか、当会ホームページからお申し込みください。後日(開催日1週間~10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

●申込書を FAX にてご送信いただく際は、FAX 番号をお間違えないようご注意ください。

●会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより [TOP] → [公開セミナー] → [よくあるご質問] をご参照下さい。 <https://www.bri.or.jp>

●最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。

一般社団法人 企業研究会
担当：早瀬 E-mail: hayakan@bri.or.jp
千代田区麹町 5-7-2 麹町 31MT ビル 2F

TEL 03-5215-3512 FAX: 03-5215-0951

141665-0106	14・12・10 投資評価手法の基礎知識と実際の適用での留意点		
会社名			
住所	〒 -		
TEL	FAX		
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			

※お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

1. PL から BS へ

- ・貸借対照表に現れる強い企業と弱い企業の特徴

2. 日々の事業活動と投資活動の違いは？

- ・企業活動における非定常業務活動＝投資
- ・投資活動のライフサイクル
- ・投資活動に伴う資源投入の推移

3. 投資の種類と評価

- ・投資と回収とは
- ・プロジェクトが生み出す収益や効果
- ・投資評価の手法
 - 収益性評価
 - 費用便益分析 (Cost Benefit Analysis)
 - VFM (Value for Money)
 - 産業連関分析 (需要予測モデル)
 - バランススコアカード (Balanced Score Card=BSC)
- ・投資の種類と効果の評価方法
 - 新規投資
 - 維持更新投資
 - 復旧投資
 - 効率化投資
- ・基本的市場規模推定のアプローチ
- ・市場を経年変化で捉え、将来の売上を予測する

休憩

4. 投資評価手法

- ・投資収益性評価手法
 - 投資回収期間測定法 (Payback Period)
 - 投下資本利益率法 (Return on Investment)
 - 内部収益率法 (Internal Rate of Return)
 - リアルオプション法 (Real Option)
 - DCFに基づく正味現在価値法 (Discount Cash Flow Net Present Value (DCFNPV))
- ・キャッシュフローと現在価値
 - キャッシュフロー分析
 - キャッシュコンバージョンサイクル (現金循環化日数)
 - 投資回収期間測定法 (Payback Period)
 - 投下資本利益率法 (ROI)
 - 投資評価手法の限界
 - 内部収益率法 (IRR)
 - IRR と DCFNPV の関係
 - 加重平均資本コスト (WACC)
 - キャッシュフローに基づいた企業価値の求め方
 - 投資収益性評価手法の計算例

5. 開発投資や設備投資におけるリスクの捉え方

- ・ビジネスリスクとオペレーションリスク
- ・投資に伴うキャッシュフローの推移
- ・投資活動のライフサイクルで捉えるリスク
- ・研究開発投資のリスク
- ・研究開発投資におけるリスクの捉え方
- ・研究前期の期待効果を高めるポートフォリオ管理
- ・設備投資におけるリスク
- ・システム開発におけるリスク
- ・システム開発投資におけるリスクの捉え方

休憩

6. 不確実性の捉え方と投資の評価

- ・投資評価と不確実性
- ・不確実性の存在する場合の評価方法
- ・期待確率を考慮した場合の期待現在価値 (EPV)
- ・とまらない開発投資の歯止め
- ・万が一の可能性の評価 (リスクをとる場合の合理性)
- ・オプションとは
- ・リアル・オプションとは
- ・オプション価値の例
- ・リアル・オプション法による評価
- ・延期オプションを利用した投資価値評価

7. 実際の投資への適用と良くある失敗と誤解

- ・投資のタイプと実際への適用
- ・事業性
- ・実行案評価
- ・投資プロジェクト遂行者のマインド設定
- ・小さく生んで大きく育てるシステム開発投資
- ・ユーザーを無視したシステム開発投資 (オペレーションリスク)
- ・市場を過大評価した事業・設備投資
- ・ビジネスリスクに対応する投資
- ・リスク評価体制

8. 投資評価に際しての留意点

※講師企業とご同業・同職種の方のご出席は、ご遠慮いただく場合がございます。予めご了承下さい。